

ハネール

10月



浜村渚の計算ノート 青柳碧人

この本は題名の通り数学のミステリです。この世界が現実と大きく違うのは学校教育です。この世界では数学の授業が大きく削られてしまい、芸術と国語を重視した無茶苦茶な内容になってしまっていました。数学なんかクソ食らえという人とか数学こそ最も美しい教科だとかいう人など色々いるとおもいます。

この本の主人公は浜村渚という女子中学生です。この本は主人公が自分達と大体同世代なものあって少しは親しみやすいのではないかと思います。人によりますがオッサンが主人公ではうーんという気がしますませんか？ この本の魅力は楽しく数学を学ぶ、知れるということです。この本では4色問題（日本地図なら隣り合う県の色を違う色にするのに4色あればできるというお話）とか円周率が出てきます。主人公の天才ぶり（数学のみ）がわかるエピソードがあります。ナンバープレイス（ 9×9 のマスをいくつかの数字をヒントに1～9までの数字で埋めるというもの。興味があるなら調べてみよう）をわかりやすいところからうめずに左から右に埋めてしまったのです。暗算だったのかと思うとただただすごいですね。

僕もこのシリーズを現在出ている11冊中10冊読んでいますが楽しいので読んでみてください。

推薦者 1年池田



舟を編む 三浦しをん

辞書編纂の話。新しい辞書を一から作るのに悪戦苦闘しながらも進んでゆく人たちの大変さがひしひしと伝わってくる。辞書はどのようにして出来上がるのかがわかりやすい。

推薦者 3年櫻井

暑くて長い夏でしたが、ようやく秋らしくなってきましたね。
今月号は、「読書の秋」ということで「本にまつわる本」を集めてみました。何かと忙しいこの季節ですが、ぜひお気に入りの一冊を探してみませんか？



水沢文具店 あなただけの物語つづります

安澄加奈

「水沢文具店」の入り口には、「ペンとノートをお買い上げの方、ご希望があれば話を書きます。オーダーメイドストーリー」という変わった張り紙がはってある。店主にお願いすると、自分のためだけに物語を書いてくれるという。
色々な悩みを抱えたお客さんたちが、店主の書く物語によって新しい一歩を踏み出していくお話です。ぜひ読んでみてください。

推薦者 1年矢澤



かなりや荘浪漫 村山早紀

雪のクリスマスイブ。作家である母親が失踪して家を追い出された須賀茜音は、天使のような少女・カーレンの導きによって、古い洋館アパート「かなりや荘」に招き入れられる。そこには、過去のトラウマから仕事ができなくなってしまった編集者など心の片隅にさびしい廃園を抱えた人々と、道半ばにして亡くなった天才漫画家の幽霊・紅林玲司がひっそりと暮らしていた。

古いアパートを舞台に、歌を忘れたかなりや達が繰り広げる、優しく力強い回復と救済の物語。夢や希望を忘れそうになったときに、そっと寄り添ってくれるような一冊です。

推薦者 2年船越